

皆様、こんばんは。

本日は、皆様をお迎えし、天皇誕生日祝賀レセプションを盛大に開催できますことを大変嬉しく思います。

昨年4月30日、明仁上皇陛下が退位された後、5月1日に当時の徳仁皇太子殿下が天皇に即位され、これをもって日本では新たな時代「令和」がはじまりました。2月23日に60歳になられた天皇陛下は、2018年の世界水フォーラム出席のためのブラジリア訪問を含め、これまで三度訪伯しておられ、ブラジルとは深いつながりを持っています。今回は「令和」最初の天皇誕生日レセプションとなります。

今日3月11日は、日本人にとって忘れられない日です。今から9年前のこの日、日本では東日本大震災が発生し、東北を中心とする被災地は甚大な被害を受けました。それ以降、日本は復興に向けて絶え間ない努力を続けてまいりました。今日の姿に至るまでには、ブラジルを含む各国からの支援が復興への大きな力となりました。ここに震災により犠牲になった人々に哀悼の誠を捧げ、また各国の皆様から受けた温かいご支援に心から御礼申し上げます。

さて、ご承知の通り、現在、新型コロナウイルスが猛威を振るっており、世界的に感染者数が増加しています。私は、2月後半に日本に一時帰国し、日本の状況を見てきました。日本政府及び日本国民は、この困難な状況の中、このウイルスの感染拡大防止に全力を挙げて取り組んでいます。私は、日本が、近い将来この危機を必ずや克服できるものと信じています。

コロナウイルス対策は、7月から開催予定の東京オリンピック・パラリンピックの準備にも影響を与えていますが、これら大会関係者も開催に向けて、対応に万全を期すべく尽力しています。私はオリンピック・パラリンピックの予定通りの開催を確信しています。そして、同大会におけるブラジル選手の活躍を大いに期待しています。特に、私が念を送って無事出場を決めたサッカーのブラジル代表をはじめ、ブラジル代表団を日本選手と同様に全力で応援しようと思います。なお、皆さんご存知ないかも知れませんが、ブラジルはパラリンピック前回大会でメダル数6位となった強豪国です。オリンピックと共にパラリンピックにも是非注目してください。

ブラジルと日本の二国間関係に関し、今年2020年は、日伯外交関係125周年、在日ブラジル人コミュニティ30周年に当たります。日本とブラジルは、長い友好関係を有し、民主主義、法の支配、人権の尊重と言った基本的価値を共有する重要なパートナーです。

両国間の要人往来も非常に活発です。昨年は、ボルソナーロ大統領は、大阪でのG20サミット及び即位の礼の機会に2度訪日し、昨年だけで安倍総理との間で3度の首脳会談

が実現しました。私の知る限り、一年の間に、これほど頻繁に両国の首脳が顔を合わせたことはありません。今年1月には山東参議院議長一行もブラジルを訪問し、2月には日本政府の招待で連邦下院議員の方々が訪日しました。

これら両国の密接な関係を背景に、今後も日ブラジル両国の「戦略的グローバル・パートナーシップ」強化に向けて、政治、防衛、経済、科学技術、教育・文化・学術、スポーツ交流など多岐にわたる分野で、両国間の協力と交流を一層進めていく所存です。中でも科学技術分野は今後力を入れたい分野であり、5月末にはブラジリアで日伯科学技術協力合同委員会を開催する予定です。

私は、人間とAIやロボットが如何に共存していくか、というテーマに強い関心を持っているのですが、このスピーチはAIが書いたものではありません。私の考えでは、AIが発達しても、国と国、人と人をつなぐ外交官は簡単には無用のものにはならないと思っています。むしろ、その前に私自身が引退することは確かですが。

私は、2017年の着任以降、ブラジル各地を訪問し、地域の日系社会の皆様とお会いして、懇談する機会を得ました。日系社会の、日本にとっての重要性を深く認識し、今後とも、ブラジル各地の日系社会との連携をさらに強化すべく努力を惜しまぬ所存です。

経済面においては、現在ブラジルでは約700社の日本企業が活動しており、その会社一つ一つが、日ブラジル経済関係促進の中心的役割を担っており、ブラジルの経済回復に伴い、日本企業の対伯関心も増大しています。本日のレセプションでは、ヤクルト・NEC・トヨタ・ヤマハ・JRC・EPSONの6社が製品・サービスを紹介していますので、是非ご覧ください。

終わりに、ご列席の皆様のご繁栄、日伯関係の更なる発展を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。